

## 国語

(問題)

2019年度

〈H31102064〉

## 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子および解答用紙には手をふれないでください。
2. 問題は3～12ページに書かれています。本文は二段になっています。試験中に問題冊子の印刷が見にくい、ページがぬけている、解答用紙のよれなどに気づいた場合は、手をあげて監督員に知らせてください。
3. 解答はすべて指定された場所に、HBあるいはBの黒の鉛筆またはシャープペンシルでいねいに記入してください。
4. 解答用紙記入上の注意
  - (1) 解答用紙の指定された場所(2カ所)に、氏名および受験番号を正確に書いていねいに記入してください。
  - (2) 指定された場所以外に受験番号・氏名を書いた解答用紙は採点しない場合があります。
  - (3) 受験番号は右づめで記入し、余白が生じる場合でも受験番号の前に「0」を記入しないでください。
  - (4) 解答用紙は折り線のところで折ってから解答してください。
  - (5) 解答の際は、「」や「」も一字と数えます。
5. 解答はすべて指定された解答らんに入ってください。指定された解答らん以外に何かを記入した解答用紙は、採点しない場合があります。
6. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにしてください。
7. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出してください。
8. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ってください。

## 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

生物学者で、専門外の人にも知られている名前はそれほど多くないが、チャールズ・ダーウィンはまちがいない、その数少ない生物学者の一人だと思う。ビーグル号に乗って世界を巡り、さまざまな生物を中心として自然をていねいに観察したダーウィンは、進化という概念を考え出す。著書「種の起源」で提案した進化論は、今ではヴァチカンの教皇庁も基本的には認める、みごとに成果である。

ところで、この偉大なダーウィンが、晩年出版した著書のテーマは、なんとミミズだった。ダーウィンもポケたのではないかと悪口を言う人もあったそうだが、実はこの本、ビーグル号の航海から帰った直後から四十年以上もの間続けた観察に基づいて書かれたものなのである。題名は、「ミミズの行為によって肥沃な土壌がつくられること、そしてミミズの習性の観察」と長い。

観察は偶然から始まった。航海から帰ったダーウィンは、石灰をまいた後十年間、耕すことなく放置してあった土地から石灰が消えたという話を聞かされた。噴火も洪水もないのにどこへ行ってしまったのか。そこで地面を掘ったところ、7センチほどのところに石灰が白く層になっていたのだ。そして、その下は砂とゴロゴロした石なのに、地面から石灰までの間は、ふかふかの真っ黒な土だったのである。よく見ると、それはミミズの糞だった。つまり、土は、ミミズの体内を通じて作られるものだというわけだ。

ダーウィンは、その後自分で石灰をまいてそれが沈んでいくのを調べ（なんと29年もかかって）、一年間で約0.6センチ沈んだと記録した。ミミズの土づくりについてのダーウィンの報告は、二十世紀になって、世界各地で確認されることになる。

米国の農務省は、1エーカーの土地のミミズが一年に50トン以上の糞をすること、しかも、すでに土になっている場所でミミズが動くことでかき混ぜる土はその20倍、つまり1000トンにもなることを示した。つまり、地球上で土を作り、耕しているのはミミズであるということになる。

人間とちがって、ミミズは目的を持って耕しているわけではない。効率よくやろうという気があるわけでもない。ただ忠実に生きていくその結果、肥沃な土が生まれ、そこに緑が育ち、生態系ができてくるのである。もちろん、土の中にはミミズの他にも多種多様な動物、菌類、バクテリアが棲み、それぞれの生活をいとなんでいる。土は生きていと言われるが、それは例えではなく、本当に生きものである。②のできているのだという認識が必要だ。そして、生きものである限り、そこには適度な水が必要である。なぜなら、生きものとはそのほとんどが水から成る存在であるからだ。

水や土について考える時、通常それを無機物として捉え、それが緑や人を支えていると考えるが、土も水もすべて生きていっている

見方をしなければならぬのである。ところが、現代科学技術文明はあらゆるものを機械とみなし、<sup>b</sup> ゆうような機械によって便利<sup>c</sup>な社会を作ろうとしてきた。

便利とは、思い通りになること、できるだけ速く事が進むことを求めるものであり、土や水もそのような使い方をした。農地も山林地も、自らの求めるものをできるだけ効率よく手にする場として扱ってきた。具体的には、化学肥料や農薬の大量使用などである。現在では、それによって、土や水の力が落ちることの体験から見直しは起きている。しかしまだ、土や水を生きものとして捉えるところまではいっていないように思う。

二十一世紀は生命の時代であるとは、よく言われることである。ところが、そのように言っている人たちの考えは、現代科学は生きものも機械とみなして、その構造と機能を明らかにしているのだから、その知識を活用して新しいテクノロジーを作ろうということなのである。

たとえば、遺伝子組換え技術。

これは、作物の性質を思い通りに<sup>c</sup> そうさし、できるだけ速く事が進むようにするために利用しようという考えで使われている。私は、遺伝子組換え技術を否定しない。これは、生物自身が多様化するために活用している方法であり、上手に言えば、生きものを生きものらしく利用できる技術である。

ただ、これを用いるのなら、まず農業のあり方<sup>③</sup>を機械論からはず

さなければならぬ。特許競争の中に作物を取り込むのを止め、それぞれ土地に合った作物を作るにあたって、より美味しく、より安全で、より収量のよい性質を持たせるために、組換え技術を使うという立場をとる必要がある。

水、土、緑、人間……。どれも皆生きものという視点から見て、そのつながりを生かしていくことで、心豊かに暮らせる環境が整うのだと思う。

豊かな土、清らかな水、美しい緑、思う存分生きる人間。二十一世紀を本当の意味での生命の時代にするには、まず水と土を生きものの視点から見ることから始めるのはどうだろう。一つの提案である。

幸い、最近多くの場で、このような見方が始まっている。⑤より、人間が自分自身を生きものとして自覚するようになると、自⑥ ずと周囲も生きものとして見ることになるのだと思う。先日岩手県のある地域での水路づくりの経緯と実際にできあがったものを見せていただいた。本来はコンクリート壁になるはずだったものを住民のいこうで石積みと草との自然工法にしたとのこと。行政と住民との間で数回にわたる話し合いをし、維持には手間のかかるけれどサカナが泳ぎ、ホタルがとぶ空間としての水路、子どもたちが遊び、大人が憩う場として水路を選んだという。そこはまさに<sup>⑥</sup> 生きて空間であり、そこを流れる水も生きていた。そしてその水を引いた田んぼの土も生きていくことになるだろう。

改めての提案のように書いたが、実は私の提案は、日本人が古くから持ってきた知恵と重なるものであることを改めて感じた次第である。

(中村桂子「水も土も生き物の視点から」より・一部改)

※エーカー……アメリカやイギリスの広さの単位。

問一 —— a 「いとな」・ b 「ゆうよう」・ c 「そうさ」・ d 「いこう」のひらがなを漢字に直しなさい。

問二 —— A 「目的」・ B 「多様」・ C 「便利」と反対の意味の語句を次から選び、それぞれ漢字に直しなさい。

げんいん	しょうすう	たんいつ	ふり	ふべん	しゅだん
------	-------	------	----	-----	------

問三 —— ① 「土地から石灰が消えた」とありますが、それはなぜですか。最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア ミミズの糞でできた土が石灰を埋めつくしたから。

イ ミミズが石灰を食べ続けて土の下へともぐっていたから。

ウ ミミズが石灰を食べてそれをそのまま糞として出したから。

エ ミミズが活発に活動することで石灰がとけてしまったから。

問四 — ② 「本当に生きものでできているのだという認識が必要だ」とありますが、それはなぜですか。最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 人間は、自らが生み出した現代の社会制度が、他の何よりもすぐれたものであると信じてきたから。

イ 人間は土を無機物としてとらえて、自分たちが求めるものを思い通りに手に入れられる場所として見てきたから。

ウ 人間は、化学肥料や農薬を大量に使用することが土の中の生きものの命をうばってきた事実から目をそむけてきたから。

エ 人間は緑や人を支えている土を大切にすべきという基本的な認識は持ってきたが、その考えを行動に移してこなかったから。

問五 — ③ 「機械論」とありますが、本文におけるその考え方を説明したものとして、最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 全ての自然物の中に等しく豊かな人格がそなわっているととらえるものの方。

イ 動物は人間に使われるという意味ではすぐれた機械と考えられるとする世界観。

ウ 入り組んだものとして生命をとらえることでその力を分散させようとする方法。

エ 全てのものに生命を認めず仕組みとその組み合わせととらえようとする考え方。

問六 — ④ 「本当の意味での生命の時代」とありますが、それはどういう時代ですか。最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 生きものが生きる意味を、より深く人間が考える場が作られる時代。

イ 生きものの体のしくみや性質を明らかにして、それを利用していける時代。

ウ 生きものが周囲の環境かんきょうとのつながりをたもちながら、その性質を活用できる時代。

エ 生きものは全て平等であるという立場に立って、全ての生命を大切にしていける時代。

問七 — ⑤ 「人間が自分自身を生きものとして自覚するようになる」とありますが、それはなぜですか。三十一字以上四十字以内で説明しなさい。

問八 ——— ⑥ 「生きている空間」とありますが、それによって生活はどのようになりますか。本文中から十三字で抜き出し、はじめの五字を答えなさい。

問九 ——— ⑦ 「日本人が古くから持ってきた知恵」の、本文の内容と合う具体例として最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 生活に用いる木が植えられ、独自の生態系が生まれて人が遊歩もできる植林法。
- イ クギを一つも用いず、木の組み合わせだけで作られるため解体しやすい建築法。
- ウ 潮の満ち引きを利用して、満潮時に石垣いしがきの中に船で魚をさそいこんでとる漁法。
- エ ワラを用いて、納豆菌なっとうの力によってよく温めた大豆を発酵はっこうさせ食品とする製法。

問十 本文全体を次の四つの見出しで分ける場合、2と4の段落の最初の五字を抜き出して答えなさい。

- 1 ダーウインのミミズ研究の成果
- 2 自然観の見直しの必要性
- 3 生命の時代へ向かうためには
- 4 一つの実例とまとめ

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

初夏のゆうべ。

七人の美しい同じ年頃の少女がある邸の洋館の一室に集うて、なつかしい物語にふけりました。その時、一番はじめに夢見るような優しい瞳をむけて小唄のような柔かい調でお話したのは笹鳥ふさ子さんというミツシヨンスクール出の牧師の娘でした。

——私がまだ、それは小さい頃の思い出でございます。父が東北の大きいある都会の教会に出ておりましたので、私も母といっしょにその町に住んでおりました。その頃、母は頼まれて町の女学校の音楽の教師をつとめておりましたの、その女学校は古い校舎でして種々な歴史のある学校だったそうでしたの。

母はうす暗い講堂で古い古い古典的なピアノを弾き鳴らして毎日歌を教えていたのです。授業が毎日の午後後に終りますと、母はそのピアノの蓋をして鍵をかけ、鍵を自分の袴の紐に結びつけて、家へ帰るのでした。

ある日のこと、校長室へ母は呼ばれました。白いひげのふさふさとした校長は、<sup>①</sup>変な顔をして母に申しました。

「貴女はあの講堂のピアノの鍵をお宅へおもちになりますか？ たしかに」

と。母は「ハイ持って帰ります」と返事をしました。そうしますと校長は、ますますげん顔をして、「ハハア、たしかに鍵は貴

女よりほかの人の手には渡さないのですか」といいます。母はおかしく思いました、

「私よりほか誰もピアノの鍵は持ちません」

といました。

校長は首を曲げて、何か考えておりましたが、やがて母に話しました。

「実は、あの講堂のピアノのことでふしぎなことがあるのです。

毎日放課後、生徒がみな校内から帰ってしまつて校舎の中は静かになつてゆく、寄宿舎の生徒が自習を始める、すると、どうです、人ツ子ひとりいるはずのないあの講堂から、妙なピアノの音が響き出るので。はじめは寄宿舎の生徒たちも、誰かが鍵を先生からはいしやくして弾いているのかと思つたのですが、あんまり毎日の宵ごとに続くので怪しんだのです。それで今日鍵のことを念のためにおうかがいしたて見たのです。放課後みだりに講堂で勝手にピアノを鳴らさせるのも、校則にはずれますからな」

と、遠まわしに校長は母をうたがっているらしいのです。母は放課後はたしかに銀色の鍵を自分で持つてかえります、どんな生徒の手にも秘密で貸してやるような、不公平なことはした覚えがないのですもの、その校長の話聞いた時、どんなに不快に思つたでしょう。

これは誰かが講堂に忍び入るのであるか？ でも鍵は私の手許にあるのに、<sup>②</sup> どうしてピアノが弾けよう、母は考えると、わからなくなりました。けれども、どうしてもピアノの鍵をあずかっている責任者として、自分のうたがいをはらさねばなりません。

母は、どうしてもそのふしぎなピアノの音をたしかめようと決心しました、そして、その日の夕、私を連れて忍びやかに女学校の庭に入りました。私と母は講堂の外の壁に身をひそめておりました。

それは夏の日でしたから、庭のポプラやアカシヤの青葉が仄かな新月に黒い影を落として、**B** を打ったように校庭は静かでした。

私は母の手に抱きよせられて息をこらしていました。ああ、その時、講堂の中で、静かにピアノの蓋のあく音がしました、そして、やがて、**C** コロン……コロン……と、水晶の玉を珊瑚の欄干から、振り落とすようなみじくもゆかしい楽曲の譜は窓からもれ出でました、それを聞いた時母の顔色はさつと変りました。その楽曲は海杳<sup>④</sup>かな伊太利の楽壇に名高い曲だったのです。

やがてピアノの調はやみました。小窓が音もなく開くと見る中に、<sup>⑤</sup> すらつと脱けた影、黄金の髪プロンドの瞳！ 月光に夢のように浮き出た一人の外国少女の俤！ 私は思わず、「あつ」と声をあげようと思いました、母はあわてて私を抱きしめて注意しました。かの外国の少女は思わぬ物蔭に人の姿をみとめたので吃驚したらしくちよつと立ち止まりましたが、やがて夕闇の空の彼方に儚なく消えゆくように姿を見失いました。

母は黙ってただ、ため息を吐くばかりでした。母は翌日校長にたずねました。

「あの講堂のピアノは学校でお求めになったものですか？」  
その時校長は申しました。

「いいえ、あのピアノは、よほど前のこと、伊太利の婦人<sup>c</sup>でうちへ宣教師として来ていたマダム、ミリヤ夫人が病気でなくなられたのち記念として寄附されたものです」<sup>⑥</sup>

母は、これを聞いて、ほほえみました。——翌日の夕、<sup>⑦</sup> いつもよりははるかに高らかに哀れふかくかの講堂のピアノは怪しき奏手の人の指によつて鳴つたのを、母は校庭で聞きました。

あくる朝、母が登校して講堂に譜本を持って入りますと、ピアノの蓋の上に、香りもゆかしい北国の花、<sup>d</sup> 気高い鈴蘭の一房が置いてありました、そして、その花の根もとには赤いリボンで結びつけられた一つの銀の鍵がございました、その下に、うす桃色の封筒がはさんでありました。母は轟く胸を、おし静めてひらきますと、<sup>※</sup> 驚べンの跡の匂い高く綺麗な伊太利語で、

感謝をささぐ。

昨夜われを見逃したまえる君に。

亡きマダム・ミリヤの子。オルテノ。

と、しるされてあつたばかりでした。母はそのとき鈴蘭の花に心

からの接吻せつぶんをして涙ぐみました。<sup>⑧</sup>

そして、その日かぎりもう永久に、夜ごとに鳴りし怪しいピアノの音は響くことはありませんでした。

あとで聞けば、その近き日に故国に帰るため、その町を立ち去った異国の少女があったと伝えられました——

伊太利……。いまはあの戦いの巷ちまたにふみにじられた詩の国の空——に、優しきかのピアノの合鍵の主オルテノ嬢じょうを、私は今もお徳とくびます——

ふさ子さんのお話はかくて終わりました。息をこらして聞きとれていた他の少女たちは、ほっと一度に吐息といきをつきました。花瓦斯ががすの光

が静かに燃ゆるばかりで、誰ひとり言葉を出すものもなく、たがいに若い憧れあこがれに潤うるんだ黒い瞳ひとみを見かわすばかりでございました。

(吉屋信子「鈴蘭」より・一部改)

※ミツシヨンスクール……キリスト教の教えを広めるために設立された学校。

※寄宿舎……生徒のため、学校が設立した共同宿舎。

※驚ペン……ガチヨウの羽でつくったペン。

※花瓦斯……明治時代に流行したガスをもちいた照明器具。

問一——a「ふしぎ」・b「はいしゃく」・c「どうち」・d「気高」のひらがなは漢字に、漢字はひらがなに直さない。

問二——A「げげんな」・C「ゆかしい」の語の意味をそれぞれ選び、記号で答えなさい。また、**B**に入る漢字一字を書きなさい。

- |   |       |       |   |       |       |
|---|-------|-------|---|-------|-------|
| A | ア     | おもしろい | C | ア     | さびしげな |
|   | イ     | すばらしい |   | イ     | おもしろい |
|   | ウ     | にくらしい |   | ウ     | 心ひかれる |
| エ | 納得しない |       | エ | たのしげな |       |

問三 — ① 「変な顔」とは、この場合、どういう顔ですか。最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア うたがいをかくしもった顔。

イ 笑いをかみころそうとしている顔。

ウ 激しいいきどおりを必死でこらえる顔。

エ 同情の気持ちをおさえきれないでいる顔。

問四 — ② 「どうしてピアノが弾けよう」とありますが、これと同じ意味のものとして最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア ピアノが弾けるだろう

イ ピアノが弾けるはずがない

ウ ピアノが弾けないともいいきれない

エ ピアノが弾けないこともおこりうる

問五 — ③ 「母の顔色はさっと変りました」とありますが、なぜですか。最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア ピアノでは弾くのがふさわしくない曲であると思われたから。

イ 他国ではとても有名だが日本ではまだよく知られていない曲だったから。

ウ 学校の生徒でないものが秘密でピアノを弾いていることがわかったから。

エ 校長が言うとおりで誰かがこっそりもう一つ鍵を作っていたことがわかったから。

問六 — ④ 「伊太利」は実際の発音に似た音の漢字を当てはめた当て字であり、最初の文字をとって、現在でもイタリア（イタリー）を

「伊」と書き表すことがあります。次の国名の略字から、ヨーロッパの国でないものを選び、記号で答えなさい。

ア 独    イ 仏    ウ 西    エ 英    オ 印

問七 — ⑤ 「一人の外国少女」とありますが、どういう人物でしたか。その人物の説明として適切でないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 戦争で荒廃することになる故国へ帰っていった人物。

イ 町の女学校にたのまれて音楽の教師をしていた人物。

ウ 学校に寄贈されたピアノの持ち主だった人物の子ども。

エ 宣教師として来日していて病気で亡くなった人物の子ども。

問八 — ⑥ 「母は、これを聞いて、ほほえみました」とありますが、それはなぜですか。最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア ピアノを弾いているのが亡き夫人をしたう人間だと理解できたから。

イ ピアノは無理にでもそれをうけつぐ人の手にわたるべきだと考えたから。

ウ ピアノは自分が考えていたよりもしつかりした人の物だったとわかったから。

エ ピアノの音色をあれほど美しく出せるのは日本の少女では無理だと実感したから。

問九 — ⑦ 「いつもよりははるかに高らかに」とありますが、それはなぜですか。三十一字以上四十字以内で説明しなさい。

問十 — ⑧ 「涙ぐみました」とありますが、この「涙」はどのような気持ちの表れですか。最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 少女のピアノの音色を再び聞けないことを残念に思う気持ち。

イ 外国で母を亡くした身の上の少女のつらい心情を思いやる気持ち。

ウ 戦争がおわったばかりの故国に帰らざるをえない少女に同情する気持ち。

エ あわただしいなかでも花を残していった少女の素早さに感動する気持ち。

〔以下余白〕

